

圓久寺のホームページが出来ました！！

この度、圓久寺のホームページが出来ました。パソコンをお持ちの方は是非見て頂きたくご案内申し上げます。

アドレス: <http://www.enkyuji.jp/>

お寺の風景写真。雨の日に写真撮影したということもあり、古いお堂(笑)のイメージが良く表れていると思います。今までお寺を訪れたことの無い方は、是非圓久寺の雰囲気を知って頂ければと存じます。

また、この「圓久寺だより」のバックナンバーや、以前紹介させて頂いた遺骨預(供養壇)の案内等も載っております。

注目は、今まで圓久寺が葬儀を通じて皆さんとの御縁を頂戴してきた目的である境内整備の、一番の目標である「鎌倉安穩廟」(仮称)という永大供養墓のイメージ図です。是非とも御覧頂きたいと存じます。

現段階ではまだまだ単なるお寺紹介にとどまっておりますが、今後いろいろと工夫していきたいと思っております。

こんな風にしてはどうかなどの提案や、感想をお知らせ頂ければ幸いです。

合掌



お寺からのお話 ~ 梅ノ木と支えの竹 ~

合掌

先日、ひとつの教えを頂きました。

庭に植えたばかりの梅ノ木があって、倒れないように三方から竹で支えてありました。それを見て先生が弟子に尋ねました。「梅ノ木は生きているだろうか？」弟子は即座に「生きています。」と答えました。「支えている竹はどうだろうか？」とたずねました。弟子はためらうことなく「もちろん死んでいます。」と答えました。先生は「なぜ？」と聞きました。「竹は根元が切られているのですから」と言いました。「確かに竹そのものは死んでいる。しかし3本の柱となって梅ノ木が風で倒れないようしっかりと支えている。もし支えがなく倒れてしまったら死んでしまうだろう。竹は梅ノ木の生命を支えている。だから、竹は生きている、といえるではないか。」

私はこの竹のように陰にいながらでも他のために尽くせる人、そのような人間になりたいと思いました。

「人間、死んだらおしまいだ。生きている時がすべてだ。魂など存在しない。」と言う人がいました。それでも彼は法事を営み、お墓参りもします。そして亡くなったお父さんの思い出話を懐かしそうにしてくれます。

私は思いました。彼の中でお父さんはずっと生きている、と。お父さんはまさに「竹」です。「梅ノ木」の彼がこれからの人生を倒れてしまわぬように「柱」となって支えてくれているのです。

私達には「竹」の柱のような存在の人が必ずいてくれます。自分が転ばないでいられるのは、いつの時も陰でそっと支えてくれている方の「お蔭様」があるからなのです。

私達は いつも 誰かに支えられている

先日、電車で飛び込もうとした女性を助けようとして、殉職されたお巡りさんがいました。死を望んだ人が生き残り、生を求めた人が亡くなってしまいました。やりきれない気持ちです。お巡りさんは生きることの尊さを、私達に教えて逝かれました。助けられた女性はお巡りさんの思いを素直に受け止め、生きていってほしいと思います。それが助けて下さった方への供養なのではないでしょうか。

私の存在・生命は、天から与えられたものです。だから、ありのままに生きて、まっとうすることが、天へのお返しなのです。そして、両親への恩返しになるのです。感謝する心持を大事にして参りましょう。

吉田俊栄 再拝